

令和 5年 12月 26日

南陽市議会議長 殿

会派会 保友クラブ
会長代行 遠藤 榮吉



令和 5年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第 4 条の規定により報告いたします。

項 目	調 査 ・ 研 修 内 容
調査期日	令和 5年 11月 6日(月)から 8日(水)まで 2泊 3日
調査場所	1. 高知県日高村 2. 徳島県鳴門市 3. 徳島県徳島市
調査目的	1. 特定非営利活動法人 わのわ会の設立経緯や、現在の状況等 2. 地方美術館の運営等 3. 瑞麟山慈雲院丈六寺での研修
調査概要	1. 「特別非営利活動法人 日高わのわ会」は地域の困りごとを解決したいとの思いからスタートした NPO 法人です。全国からの大学や企業等の視察は 2,000 件を超えたそうです。会の考え方としては、できる人が、できる時間に、できることをするという事で、その仕組みは、村を一つの家族として考え、そして、家族や行政につなぐ循環の仕組みでした。「地域のおかあちゃん食堂」やお弁当の配食サービスなども行ない「日高村フルーツトマト」を使った加工販売事業なども行なっていました。障がい者就労支援では、自分で選んだ仕事を責任感を持って取り組んでもらい、頑張った分だけお金を稼ぐことができるように工賃に反映させ、そのうえで社会に貢献しているという実感ややりがいを持てる工夫をされていました。 また、地域おこし協力隊と共同経営で、宿泊付スポーツステーション「とまとと」を立ち上げ、宿泊施設のなかった日高村に新しいスポットを作ることで、地域活性はもちろん、移住のきっかけなどにも繋げているようです。

	<p>他にも、村民や学生さんと力を合わせて村おこしをしています。「日高メシふえすていばる」の開催は、村民の皆さんにももっと楽しんでもらおうと、地域住民や学生さん達に声をかけ、毎年 30 店舗近い店が出品する、地域全体が関わる村の一大イベントになったそうです。子供から大人までたくさんの人々が参加するようになり、村おこしや地域活性の成功事例として、よく紹介されるようになったようです。</p> <p>「日高わのわ会」の視察を通して、多様な可能性に挑戦し、できる事を見つけ行動する事が、成功に繋がると感じた。</p> <p>2. 大塚国際美術館は、徳島県鳴門市にあり、大塚製薬グループが創業 75 周年事業として、1998 年に開館した美術館です。鳴門海峡に面した砂浜で採取した砂でタイルを作る事業を提案し、コンクリートの原料として阪神方面に売られていた徳島の砂に、付加価値を高めて販売することが、大塚グループや徳島県のためになると考えたそうです。</p> <p>美術館の特徴としては、西洋絵画 1,000 点余りを原寸大に再現しており、世界の様々な美術品を鑑賞できます。</p> <p>また、美術館と地域との関わりとしては、地元のアーティストや文化団体と協力して、地域コミュニティの発展に貢献しているそうです。</p> <p>3. 阿波の法隆寺、阿波の正倉院と言われ、徳島の宝とまで言われている丈六寺には、数多くの国の重要文化財が歴代住職様、何より徳島の住人の皆様で守ってこられた寺宝を研修させていただきました。なかでも、像高 3.1m、総高 4,668m の聖観音坐像、他に鈴木芙蓉の画や多くの狩野派の画など、数多くの文化財の研修をさせていただきました。</p> <p>長い間、議員の活動の中で、多くの寺院や文化財の研修をさせていただきましたが、これほど一寺院が重要文化財等を多く守られてこられたことに、ただただ驚いて研修をさせていただきました。</p> <p>歴代住職様が守ってこられた寺院の宝を今後も末永く保存され、多くの皆様に伝えて下さることを願っています。</p>
その他	